

おおさか  
KEY  
わーど  
第45回

インターナショナル・ジャズ・デイ2014大阪については、  
<http://www.ijd2014-osaka.jp/>へアクセスください。



インタビュー中のハービー・ハンコック  
(インターナショナル・ジャズ・デイ2013)



「インターナショナル・ジャズ・デイ」  
2012年開催の様子

スウィングしなけりや大阪やおまへん  
ジャズストリート、ジャズボートもよろしく

“インターナショナル・ジャズ・デイ (International Jazz Day)”の第3回が大阪で開催される。それを聞き、ウオォオと思った。この音楽の祭典は、全世界がジャズを通じて文化交流し国際理解を深め、教育を推進することを目的に、2011年、ユネスコ総会で開催を決定し、4月30日を“International Jazz Day”とすることが宣言されたものである。

第1回は2012年に国連のあるニューヨークとハリ、第2回は2013年にイスタンブールがメイン会場に選ばれ、そこを中心に開催され、世界五大陸の各地でジャズイベントが開かれている。その栄誉あるメインの第3回会場に大阪が選ばれたのである。

以前、本誌に“道頓堀ジャズ”を書いたが、やっぱり大阪はジャズの街だった。日本のガーシュインと讃えられる作曲家服部良一が、戦前の道頓堀を、ジャズの街ニューオーリンズのようにと回顧して知られるようになった言葉である。ユネスコのホームページも、“道頓堀ジャズ”を意識して「1920年代初頭から半ばにおける日本の“ジャズのメッカ”として伝説的な歴史を考えると、大阪をインターナショナル・ジャズ・デーのグローバル・ホスト・シティに選ぶことは理想的な選択」という趣旨が記され、服部のことや、ルイ・アームストロングが「日本のサッチモ」と賞讃したトランペットの南里文雄のことへと言及していく。

4月30日は、昼間に有名ミュージシャンや教育者が開く教育プログラムが生まれ、夜には、大阪城西の丸庭園で“2014オールスターグローバルコンサート”が

開かれる。演奏会は世界に同時発信され、世界の注目が大阪に集まる。記念の年と言っても来年の落城400年は大阪人としてあんまりうれしくないが、ユネスコのホームページにアップされた天守閣の写真も晴れやかである。大阪城はジャズとも関係が深く、関西11大学の学生バンドによる“大阪城Jazz Festival”も今年で第24回を迎える。

大阪を訪れるユネスコ親善大使、巨匠ハービー・ハンコックは、被爆者に捧げるピアノ曲「平和の街のために」を広島市に寄贈するなど日本との関係も深く、私など学生時代にレコードで聴いた“V.S.O.P.クインテット”が懐かしい。当日のコンサートには、日本から秋吉敏子、日野皓正<sup>ひの てるまさ</sup>も出演する。

ところでこの話を最初に聞いたのは、ジャズ・プレイヤーの吉川裕之さんからである。吉川さんはディキシースタイルのジャズバンド「サウスサイドジャズバンド」を結成して活動し、毎年秋の“MINAMI JAZZ WALK”にはプロデューサーとしてかかわったり、道頓堀を航行するジャズボートでも活躍されている。4月26、27日には、とんぼりリバーウォークを使ったライブとジャズボート、4月29日には“インターナショナル・ジャズ・デー”のローカルイベントとして“御堂筋ジョイふる・ジャズストリート”も予定とのこと。

「世界にも類のない水路を活用したジャズフェスタ」を開催する夢を吉川さんは語るが、ユネスコの無形文化遺産・文楽といい、真に大阪と文化を愛することが世界に通じる道であることを実感させられる。